

第1回 資源循環自治体フォーラム

～地方創生 2.0 に向けた官民の連携強化～

第二部 第1・2セッション テーマ4 資料集



令和7年9月12日

大阪府立男女共同参画・青少年センター(ドーンセンター)

環境省・環境省近畿地方環境事務所

大阪府

3R・資源循環推進フォーラム

第二部プログラム (@4F・5F 各会議室)

(以下敬称略)

◆ 第1セッション (13:45～14:45) / 第2セッション (14:55～15:55)

(1)使用済製品のリユースの推進 @5F 視聴覚スタジオ

<テーマ内容>

- 事業者等と連携し、市民がモノを捨てる前にリユースできるような仕組みづくりについて
- 入学・卒業、引っ越し、生前整理・遺品整理時等のライフステージに応じて出てくる不用品のリユースを推進するにはどうしたらよいか

<プログラム>

- ・「環境省におけるリユースの取組について」 13:45～13:55 / 14:55～15:05
環境省 環境再生・資源循環局 資源循環課 齋藤 那奈
- ・「リユース業界団体との連携による 13:55～14:05 / 15:05～15:15
循環型まちづくりの推進」
東京都稲城市 都市環境整備部 生活環境課 ごみ・リサイクル係 遠山 幸樹
- ・「循環型社会の実現 リユースの促進による 14:05～14:15 / 15:15～15:25
ごみ減量事例のご紹介」
株式会社ジモティー ジモスポ事業開発部 事業開発G マネージャー 鑛 太一
- ・意見交換、全体共有 14:15～14:40 / 15:25～15:50
- ・まとめ 14:40～14:45 / 15:50～15:55

(2)自治体と事業者が連携したプラ回収・再商品化の推進 @4F 大会議室1

<テーマ内容>

- プラ回収量を増やす、リサイクル率を向上させるための課題について

<プログラム>

- ・「プラスチック資源循環の推進について」 13:45～13:55 / 14:55～15:05
環境省 環境再生・資源循環局 資源循環課 容器包装・プラスチック資源循環室 牧 佳希

- ・「KOBE PLASTIC NEXT
エコノバ(資源回収ステーション)」
兵庫県神戸市 環境局 資源循環課 課長 井関 和人 13:55～14:05 / 15:05～15:15
- ・「動静脈×官民連携による
プラスチックリサイクルの高度化について」
大栄環境株式会社 経営管理本部システム部/資源循環システムズ株式会社 取締役 瀧屋 直樹 14:05～14:15 / 15:15～15:25
- ・意見交換、全体共有 14:15～14:40 / 15:25～15:50
- ・まとめ 14:40～14:45 / 15:50～15:55

(3)小型家電リサイクル・リチウム蓄電池等の適正処理の推進 @4F 中会議室1

<テーマ内容>

- 使用済み小型家電の回収量を増やし、資源循環を促進するための課題について
- リチウム蓄電池等の分別回収や火災防止対策等の課題について

<プログラム>

- ・「小型家電リサイクル法の最近の動向について」 13:45～13:50 / 14:55～15:00
環境省 環境再生・資源循環局 資源循環課 資源循環制度推進室 小林 勇太
- ・「廃棄物処理施設等におけるリチウム蓄電池に
起因する火災事故を防ぐための取組について」 13:50～13:55 / 15:00～15:05
環境省 環境再生・資源循環局 廃棄物適正処理推進課 脱炭素調整係長 國分 綾希子
- ・「小型家電リサイクル回収量拡大に向けた取り組み」 13:55～14:05 / 15:05～15:15
一般社団法人小型家電リサイクル協会 会長 金城 正信
- ・「廃棄物分別特化AIエンジン Raptor VISION」 14:05～14:15 / 15:15～15:25
株式会社PFU 次世代事業開発部 Raptor事業開発部 商品開発課 本江 雅信
- ・意見交換、全体共有 14:15～14:40 / 15:25～15:50
- ・まとめ 14:40～14:45 / 15:50～15:55

(4)サステナブルファッションの推進 @4F 中会議室2

<テーマ内容>

- 各自治体の現状の課題共有と回収後の出口についての意見交換
- 国から提供する情報やツールに関する意見交換

<プログラム>

- ・「サステナブルファッションの推進 13:45～13:55 / 14:55～15:05
ーこれからのファッションを持続可能にー」
環境省 環境再生・資源循環局 資源循環課 田川 怜
- ・「大阪府豊中市における子供服リユース 13:55～14:05 / 15:05～15:15
「おゆずりぐるり」の取組みについて」
特定非営利活動法人とよなか市民環境会議アジェンダ21 事務局長 廣田 学
- ・「京都市の取組(サステナブルファッションの推進等)」 14:05～14:15 / 15:15～15:25
京都府京都市 環境政策局 地球温暖化対策室 吉澤 佑夏
- ・意見交換、全体共有 14:15～14:40 / 15:25～15:50
- ・まとめ 14:40～14:45 / 15:50～15:55

(5-1)下水汚泥資源の肥料利用の推進 @4F 大会議室3 ※第1セッションのみ

<テーマ内容>

- 下水汚泥資源の肥料利用を進めるにあたり必要なことは？
- 自治体・企業として、エンドユーザーに汚泥肥料を使用してもらうために、何をすれば良いと思うか？

<プログラム>

- ・「下水汚泥資源の肥料利用の推進に向けた取組」 13:45～13:55
国土交通省 水管理・国土保全局 上下水道企画課 脱炭素化・資源利用推進室
課長補佐 尾崎 智弘
- ・「資源循環「こうべ再生リン」プロジェクト」 13:55～14:05
兵庫県神戸市 建設局 下水道部 計画課係長 清水 武俊
- ・「循環型社会に向けた下水汚泥肥料の緑地活用
ー 緑化資材のパイオニアとしての取り組みー」 14:05～14:15
富士見工業株式会社 取締役社長室 室長 山本 縁

- ・意見交換、全体共有
- ・まとめ

14:15～14:40

14:40～14:45

(5-2)使用済紙おむつリサイクルの推進 @4F 大会議室3 ※第2セッションのみ

<テーマ内容>

- 使用済み紙おむつのリサイクルを地域で進めるには、何がボトルネックか？
- 紙おむつリサイクルを持続可能にするには、地域のどの事業者と連携できるか？

<プログラム>

- ・「使用済紙おむつの再生利用等の促進に向けた取組について」 14:55～15:05
環境省 環境再生・資源循環局 資源循環課 循環型社会推進室
鳥居 哲也
- ・「使用済紙おむつ再生利用プロジェクト」 15:05～15:15
愛知県蒲郡市 企画部 企画政策課 サークュラーシティ推進室長
羽田野 裕昭
- ・「使用済み紙パンツのリサイクルシステムの実現による
プロダクトライフサイクルを通じた循環型モデルの構築」 15:15～15:25
ユニ・チャーム株式会社 Recycle事業推進室
織田 大詩
- ・意見交換、全体共有 15:25～15:50
- ・まとめ 15:50～15:55

(6)食品ロス削減・食品リサイクルの推進 @5F 大会議室2

<テーマ内容>

- 食品リサイクル・・・食品循環資源のリサイクル率向上に向けた自治体の意義・役割
- 食品ロス・・・フードテックによる食品ロス削減(アップサイクルやフードシェア等)

<プログラム>

- ・「食品リサイクル推進に向けて」 13:45～13:50 / 14:55～15:00
環境省 環境再生・資源循環局 資源循環課 主査 小田戸 聡
- ・「食品ロス削減に向けて」 13:50～13:55 / 15:00～15:05
消費者庁 消費者教育推進課 食品ロス削減推進室 係長 橋本 浩子

- ・「生活者と企業、自治体の共創がひらく、
食品ロス削減の新たな道」
エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社 経営企画グループ サステナビリティ推進室
高橋 諒
13:55～14:05 / 15:05～15:15
- ・「奈良市における給食残さの資源化、
食品ロス削減の取り組み」
奈良県奈良市 環境部 廃棄物対策課長
山森 直人
14:05～14:15 / 15:15～15:25
- ・意見交換、全体共有
14:15～14:40 / 15:25～15:50
- ・まとめ
14:40～14:45 / 15:50～15:55

(7)家庭ごみの分別回収の推進 @5F セミナー室2

<テーマ内容>

- 分散型資源回収拠点の活用にあたり想定される課題
- 分別収集の実施に向けた課題など

<プログラム>

- ・「一般廃棄物の分別収集について」
環境省 環境再生・資源循環局 廃棄物適正処理推進課 主査
石井 颯杜
13:45～13:50 / 14:55～15:00
- ・「資源持込型施設「エコドーム」の活用」
岐阜県輪之内町役場 住民環境課
陸田 友彦
13:50～14:00 / 15:00～15:10
- ・「入間市での官民連携による家庭系廃食油の
回収・リサイクル事業」
埼玉県入間市 環境経済部 エコ・クリーン政策課
榎本 寛
14:00～14:10 / 15:10～15:20
- ・「使用済み油の回収及び持続可能な
航空燃料の普及に関する取り組み」
大阪府吹田市 環境部 環境政策室 主幹
和田 亜由美
14:10～14:20 / 15:20～15:30
- ・意見交換、全体共有
14:20～14:40 / 15:30～15:50
- ・まとめ
14:40～14:45 / 15:50～15:55

(8)森林資源の循環利用の推進 @5F 中会議室3

<テーマ内容>

- 企業や地方公共団体で木材利用を進める(始める)ために、消費者や住民へのアピールに有効な項目は何か
- それらのアピールに取り組む、企業や地方公共団体のインセンティブのために必要な要素は何か

<プログラム>

・「森林資源の循環利用の推進(林野庁)」 13:45~13:55 / 14:55~15:05
林野庁 林政部 木材利用課 建築物木材利用促進官 牧野 秀史

・「森林資源の循環利用の推進(京都市)」 13:55~14:05 / 15:05~15:15
京都府京都市 産業観光局 農林振興室 木の文化推進課 課長 小林 仁大

※・「サステナビリティ経営推進における木造取組」 14:05~14:15 / 15:15~15:25
日本生命保険相互会社 不動産部店舗企画室 調査役 奥野 剛司

・意見交換、全体共有 14:15~14:40 / 15:25~15:50

・まとめ 14:40~14:45 / 15:50~15:55

◆ 第3セッション (16:05~17:00) @4F・5F 各会議室

・各テーマごとの意見交換 @4F・5F 各会議室

・スタートアップ企業による革新的な技術やビジネスモデルの紹介

@4F 大会議室3

<プログラム>

・「資源循環市場の創出に向けたスタートアップの活動紹介」

一般社団法人資源循環推進協議会 事務局長 16:10~16:20
笹木 隆之

・「廃石膏ボードの地産地消型資源循環モデル」 16:20~16:30
株式会社GYXUS 代表取締役 平田 富太郎

・「IOTスマートゴミ箱「SmaGO」を、街の”資源循環ステーション”に」 16:30~16:40
株式会社フォーステック 取締役COO 岸 貴義

≪第二部 第1セッション 第2セッション≫

【テーマ4】

「サステナブルファッションの推進
ーこれからのファッションを持続可能にー」

環境省 環境再生・資源循環局 資源循環課
田川 怜



2025.9.12 第1回資源循環自治体フォーラム 第二部

サステナブルファッションの推進 - これからのファッションを持続可能に -

環境省「ファッションと環境」タスクフォース
環境省 環境再生・資源循環局 資源循環課
田川 怜

本日皆さまにお伝えしたいこと

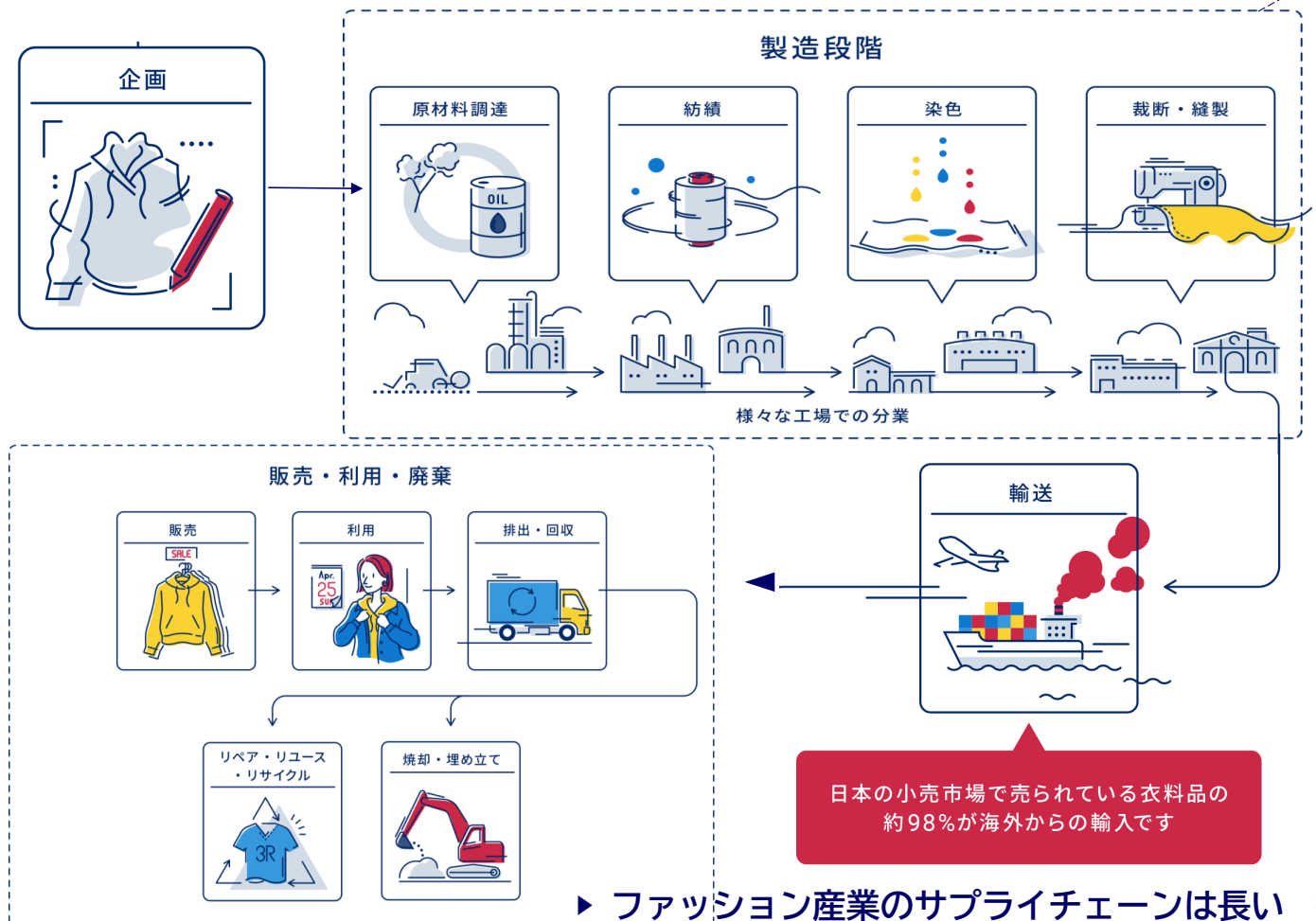
- 1 我が国における繊維製品の資源循環の現状
- 2 繊維製品の資源循環を促進するための課題
- 3 資源循環における我々の役割と今後の対応

本日皆さまにお伝えしたいこと

- 1 我が国における繊維製品の資源循環の現状
- 2 繊維製品の資源循環を促進するための課題
- 3 資源循環における我々の役割と今後の対応

2

衣服が作られてから廃棄されるまでの一生

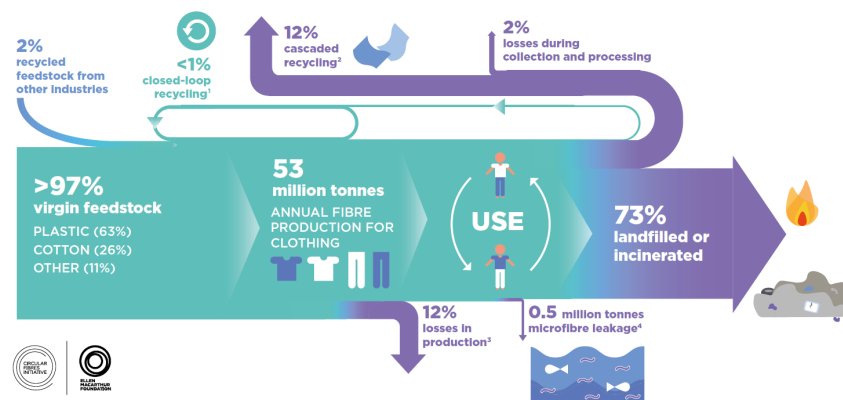


3

ファッション産業が環境に与える影響

- 過去15年間で、**衣料品の生産は約2倍**
- 繊維生産（綿花栽培を含む）は年間**約930億立方メートルの水**を使用
- 2015年、繊維生産からの温室効果ガス（GHG）排出量は合計**12億トンのCO2**に相当、すべての国際線と海運を合わせたものを上回る
- 世界の**工業用水汚染の20%**は、繊維の染色と処理に起因

FIGURE 3: GLOBAL MATERIAL FLOWS FOR CLOTHING IN 2015



- 1 Recycling of clothing into the same or similar quality applications
- 2 Recycling of clothing into other, lower-value applications such as insulation material, wiping cloths, or mattress stuffing
- 3 Includes factory offcuts and overstock liquidation
- 4 Plastic microfibres shed through the washing of all textiles released into the ocean

Source: Circular Fibres Initiative analysis – for details see Appendix B

- 洗濯中に放出された**約50万トンのマイクロファイバー**が、**毎年海洋に流出**
- 材料はほとんど埋め立て地に送られるか、焼却され、新しい衣料品にリサイクルされるのは**1%未満**で、毎年**1,000億米ドル**以上の材料が失われている
- 衣類の活用不足とリサイクルの欠如により、**毎年5,000億米ドル以上の価値が失われている**

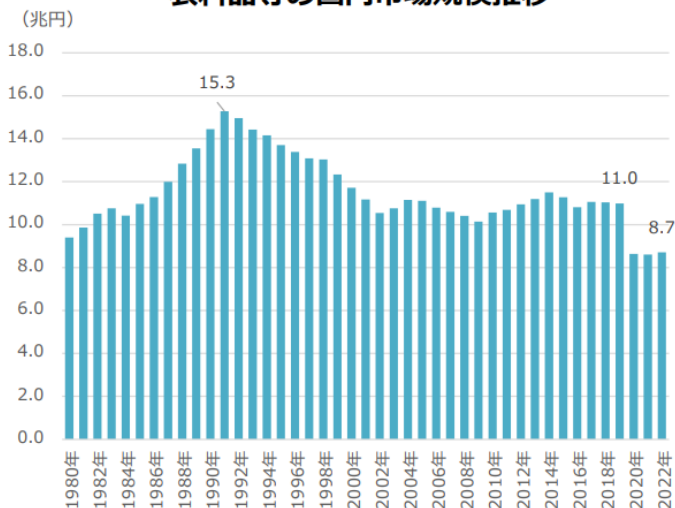
Source: Ellen MacArthur Foundation (2017), A New Textiles Economy: Redesigning fashion's future
https://www.ellenmacarthurfoundation.org/assets/downloads/publications/A-New-Textiles-Economy_Full-Report.pdf

4

我が国の繊維産業における市場規模、生産量の推移

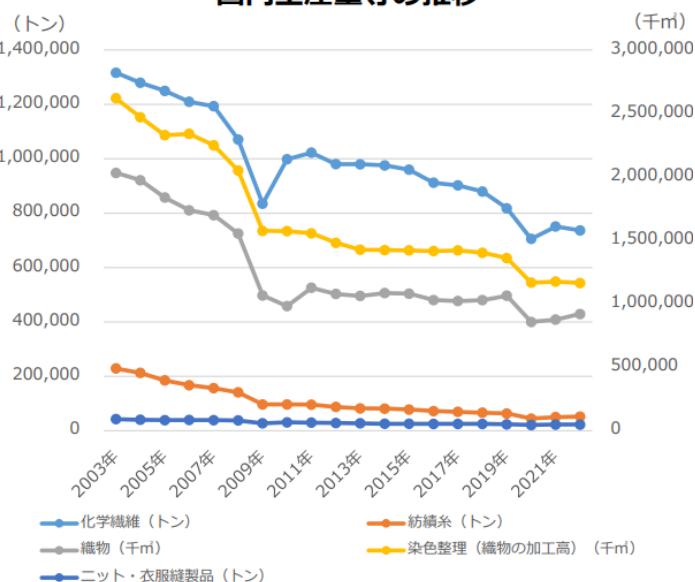
- 衣料品等の国内市場規模は、**1990年代に入り減少傾向だったが、2000年代以降は横ばいの状況。**
- 2020年以降は**新型コロナの感染拡大による外出自粛の影響を受け国内市場規模は減少**したものの、**2022年でもコロナ前までの市場規模まで回復していない。**

衣料品等の国内市場規模推移



資料：経済産業省「商業動態統計調査」（2022）。
 ※ 繊維・衣服・身の回り品小売業の推移

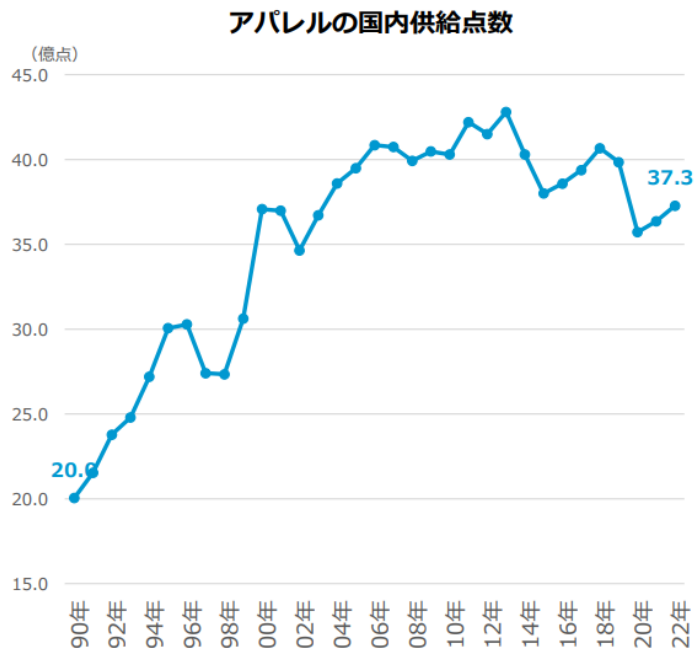
国内生産量等の推移



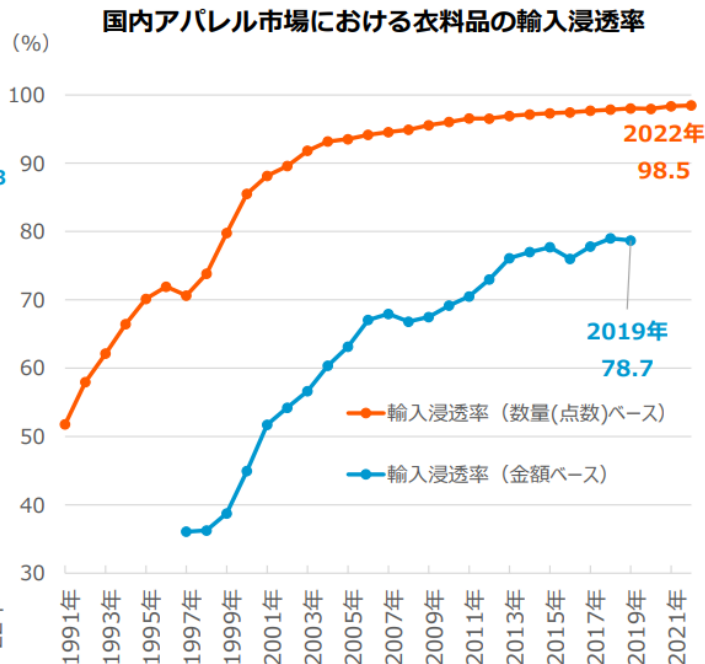
資料：経済産業省「生産動態統計調査」（2022）。

国内供給量の推移、輸入浸透率

- 国内におけるアパレル供給点数は、1990年には約20億点だったが、2022年には1.8倍以上に増加。
- 2022年の輸入浸透率は数量ベースで98.5%であり、海外生産（輸入）の割合が高い。



出典：日本繊維輸入組合「日本のアパレル 市場と輸入品概況」（1991-2023）。
※国内供給量のうち、国内生産量は一部製品について、従業者30名以上の企業の数値のみを計上している。



出典：日本繊維輸入組合「日本のアパレル 市場と輸入品概況」（1992-2022）。

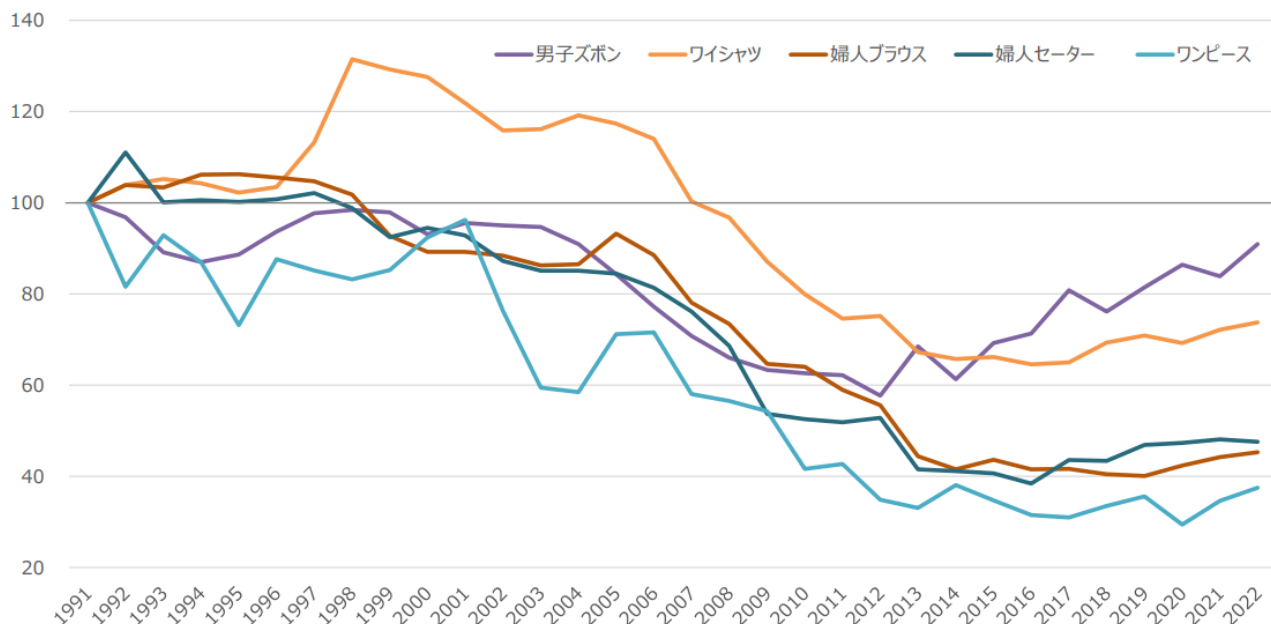
出典：令和5年11月10日 産業構造審議会製造産業部会繊維産業小委員会
資料3-2「繊維産業の現状と国内外のサステナビリティをめぐる動向等を踏まえた取組の方向性について（事務局）」

6

国内市場における衣料品の小売価格の推移

- 東京都区部における衣料の小売価格は、1991年の値を100として推移比較した場合、この30年間で大きく下落。特に、婦人衣料（ブラウス・セーター・ワンピース）の下落が大きい。

主要衣料品の東京都区部での小売価格の推移



出典：総務省「小売物価統計調査」を元に事務局作成。
※1991年の価格を100としたときの推移。

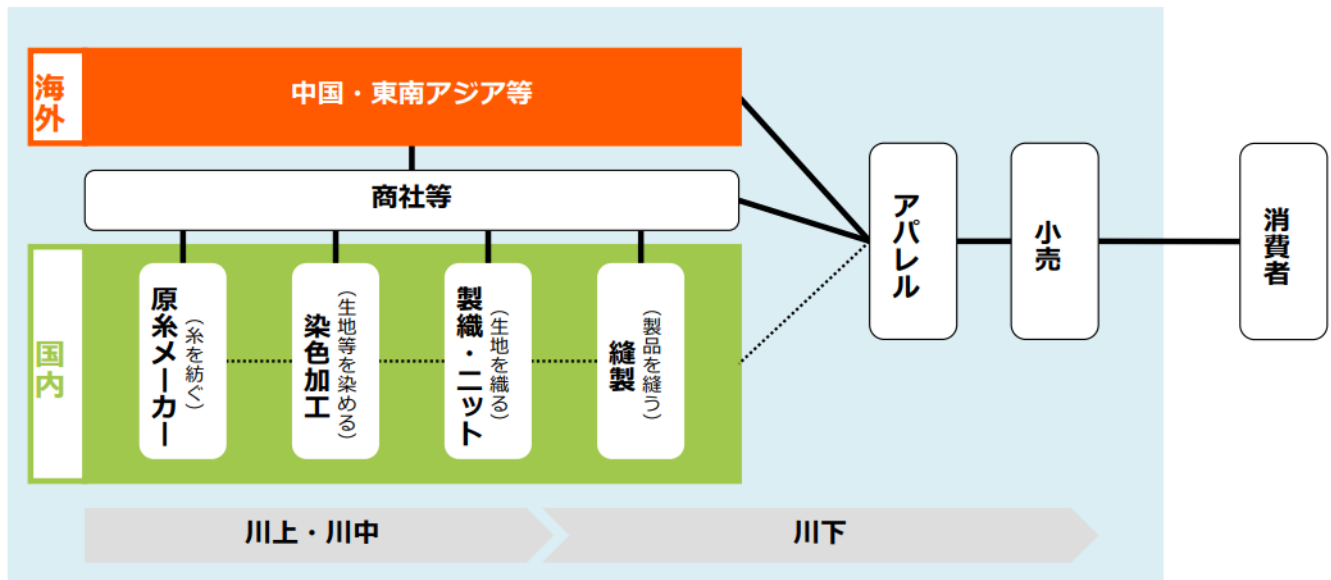
出典：令和5年11月10日 産業構造審議会製造産業部会繊維産業小委員会
資料3-2「繊維産業の現状と国内外のサステナビリティをめぐる動向等を踏まえた取組の方向性について（事務局）」

7

我が国の繊維産業の現状

- 国内の繊維産業は、原糸の製造、生地製造、生地等の染色加工、縫製の各段階が分業構造となっている。
- 日本の素材は海外ブランド等から高く評価される一方で、アパレルは中国・東南アジア等からの輸入依存が強くなり、国内製造事業者との結びつきが希薄化。

日本の繊維産業の典型的なサプライチェーン



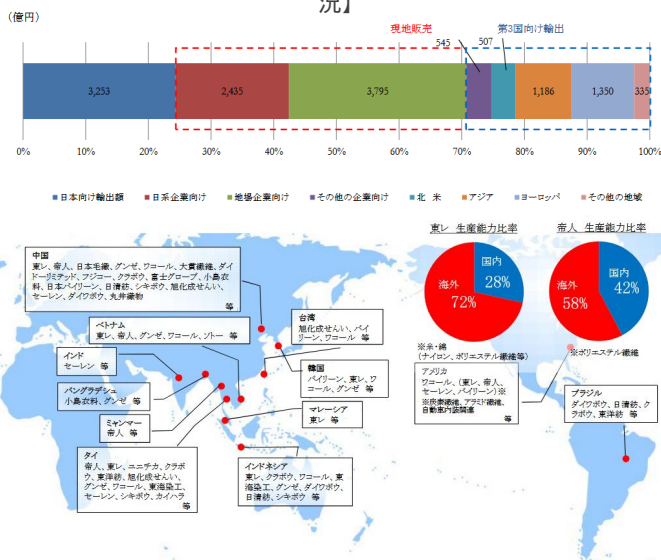
出典：令和5年1月20日 第1回 繊維製品における資源循環システム検討会 資料3 繊維製品の資源循環システムをめぐる現状と課題（事務局）

8

繊維製品におけるサステナビリティ推進の動き

- 繊維産業は、エネルギーや水等の使用による環境負荷が大きいとの指摘もあり、ファッションにおけるサステナビリティに対する関心が高まっている。
- 他方、我が国の繊維企業が企画・製造する繊維製品は、海外拠点での生産の割合が高く、我が国への輸入の他、欧州等の第三国への輸出も多く、国際展開によって産業競争力を維持してきた。
- 今後、我が国の繊維産業が、グローバルに産業競争力を維持・強化していくためには、環境負荷の低減や人権への配慮等が不可欠。

【我が国の繊維産業企業の現地法人での売上高の内訳と海外進出状況】



【サステナブルファッションの認知と関心】



継続層	具体的な取組を行って6ヵ月以上である	3.0%
実行層	具体的な取組を行って6ヵ月未満である	0.7%
準備層	関心があり、ここ1ヶ月以内にできることは実行したい	3.2%
関心層	関心はあるが、日常生活の中で具体的な行動は起こしていない	29.2%
無関心層	知っていたが全く関心はない	16.0%
非認知	(アンケートに回答するまで)サステナブルファッションを知らなかった	47.9%

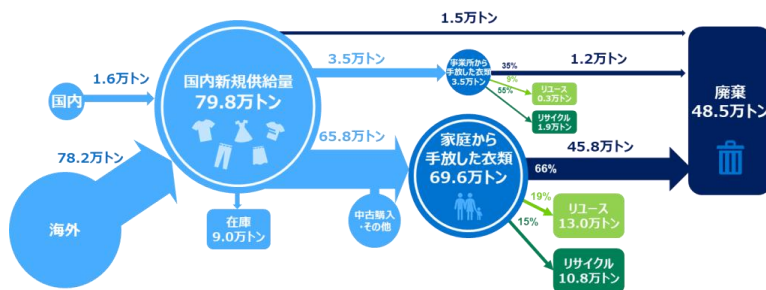
(出典) 検討会第2回資料 2 17ページ(右)
経済産業省「アパレル・サプライチェーン研究会報告書」(左)
出典：令和5年9月28日 繊維製品における資源循環システム検討会報告書概要

我が国における繊維製品の資源循環の現状

- 現在（2022年）、年間約73万トンの衣類が使用後に手放され、手放された衣類の約35%がリユース（17%）、自動車の内装材や産業用ウエスといった産業資材等へ利用（18%）されているが、残り（約65%）は廃棄されている状況。
- 衣料品を長く着るための衣料品の補修サービスや古着市場でのリユース、新たな価値を付与するアップサイクルなどの取組が進展。衣料品を原材料とした産業用資材等への利用についても、新たな活用方法を模索しているところ。
- こうした既存の取組を支援しつつ、衣料品の廃棄量を低減させていくことが重要。

2022年版 衣類のマテリアルフロー

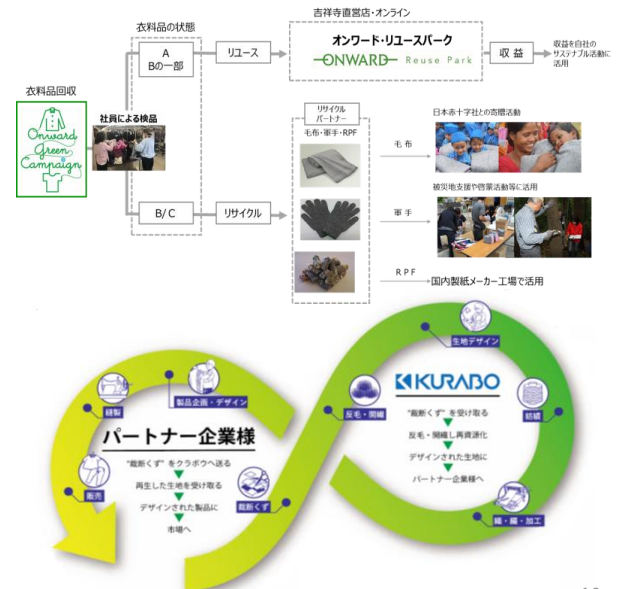
（出典：環境省 令和4年度循環型ファッションの推進方策に関する調査業務）



国内の繊維産業企業による資源循環の取組

（右上）株式会社オンワード樫山の取組（出典：第2回検討会資料4）

（右下）倉敷紡績株式会社の取組（出典：第1回検討会資料7）



出典：令和5年9月28日 繊維製品における資源循環システム検討会報告書概要

10

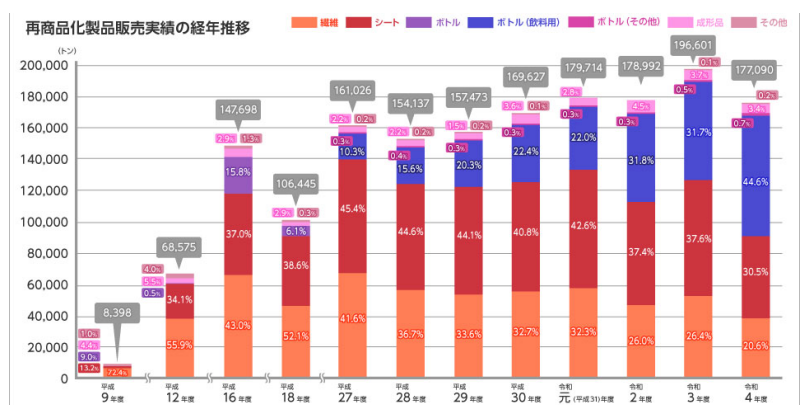
繊維から繊維の水平リサイクル推進の必要性

- 他方、衣料価値の低下等による古着ニーズの減少や、国内工場の減少による産業用途としての需要の増加も見込めない中で、故衣料品の廃棄量の削減には、新たな需要が必要。
- 従来、リサイクル繊維は廃ペットボトルを再生利用したものが主流だったが、再生ペットボトル原料としての需要増加に伴い、繊維原料に再生される廃ペットボトルは減少。
- 故衣料品を原料とした繊維から繊維への水平リサイクル（繊維to繊維リサイクル）を推進することで、国内の故衣料品の廃棄量削減や、原材料調達・廃棄で発生する二酸化炭素排出量を削減し、環境負荷の低減を目指す。

国内に供給される衣料品のライフサイクルCO2排出量



廃ペットボトルのリサイクル用途別販売実績の経年推移（2022年）



※図表における廃ペットボトルは自治体回収によって集められたものの総数であり、事業者等における回収により収集された分を含みません。

（出典）検討会第2回資料2（左）、日本容器包装リサイクル協会HP（https://www.jcpa.or.jp/recycle/related_data/tabid/501/index.php#Tab501）（右）

出典：令和5年9月28日 繊維製品における資源循環システム検討会報告書概要

本日皆さまにお伝えしたいこと

1

我が国における繊維製品の資源循環の現状

2

繊維製品の資源循環を促進するための課題

3

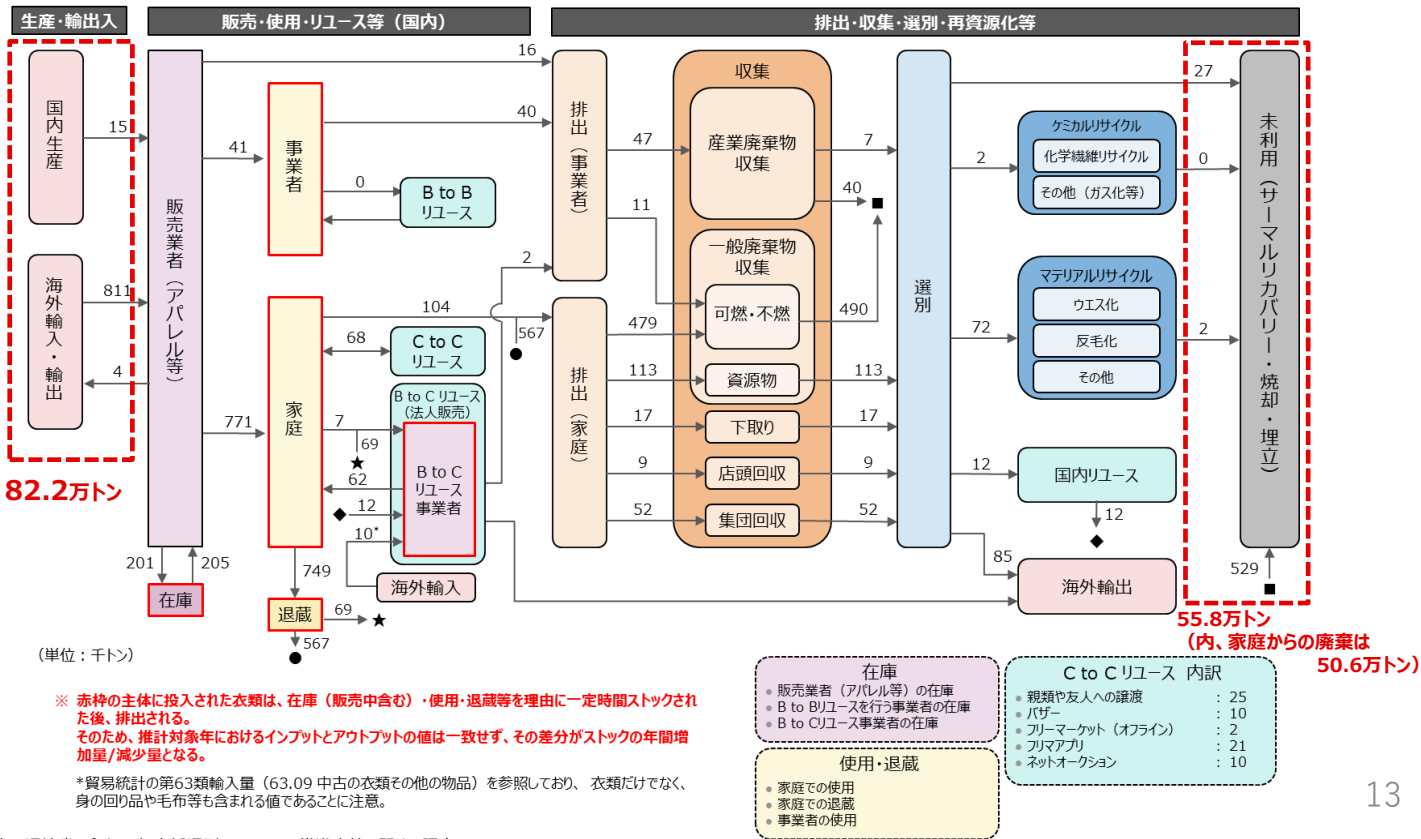
資源循環における我々の役割と今後の対応

12

衣類のマテリアルフロー（2024年版）

（注）本フローは、2024年時点で把握可能な最新データを用いて作成されており、「2024年に作成されたフロー」という位置づけである。必ずしも、2024年時点の実情が反映されたものでない点に注意が必要である。

- 衣類の国内新規供給量は計82.2万トン。
- その約7割に相当する計55.8万トンが、事業所及び家庭から手放され、**未利用で廃棄されている**



13

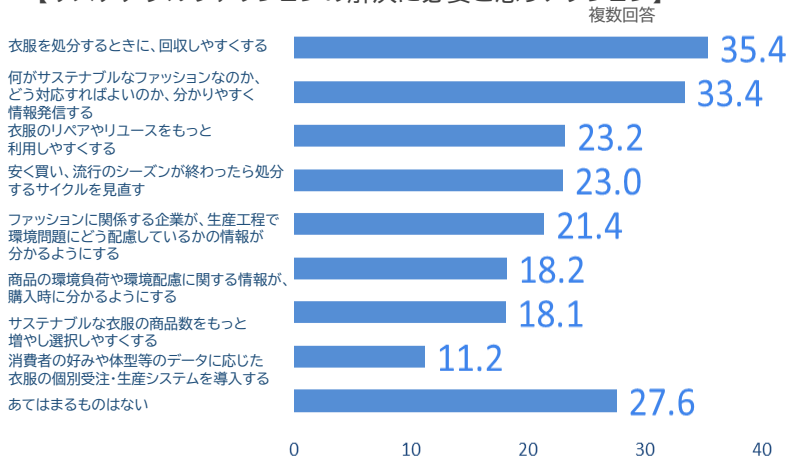
多くの関心を集めるサステナブルファッション！

【サステナブルファッションの認知と関心】



継続層	具体的な取組を行って6ヵ月以上である	3.0%
実行層	具体的な取組を行って6ヵ月未満である	0.7%
準備層	関心があり、ここ1ヶ月以内にできることは実行したい	3.2%
関心層	関心はあるが、日常生活の中で具体的な行動は起こしていない	29.2%
無関心層	知っていたが全く関心はない	16.0%
非認知	(アンケートに回答するまで)サステナブルファッションを知らなかった	47.9%

【サステナブルファッションの解決に必要と思うアクション】



- ▶ サステナブルファッションの認知は半数以上(52.1%)
- ▶ 関心がある層は36.1%で、認知者の約7割
- ▶ 実行している層は3.7%
- ▶ 解決に必要な事は、「衣服処分時の回収のしやすさ」「情報発信」

出典：環境省 令和4年度循環型ファッションの推進方策に関する調査

14

衣類回収の3ルート

①行政回収、②集団回収、③店頭回収

①行政回収

- 全国1,741市区町村のうち、997市区町村（57.2%）で布類の収集を行っており、人口比では64%
- 700市区町村（5,040万人）ではステーション式の収集
- 収集による自治体の回収量は130,814t

集められた衣類は入札等により古着・古布の回収・再利用の事業者である**故繊維業者**に引き取られる

②集団回収

- 自治町会、子ども会などの住民親睦団体が、家庭から出る古紙・缶・布類・びんなどの資源を持ち寄り、自分達で契約した回収業者に引き渡す自主的な資源リサイクル活動
- 布類は直接あるいは間接的に**故繊維業者**が回収
- 報奨金等により支援している自治体もあり、自治体が把握されている衣類の回収量は60,744t

15

衣類回収の3ルート

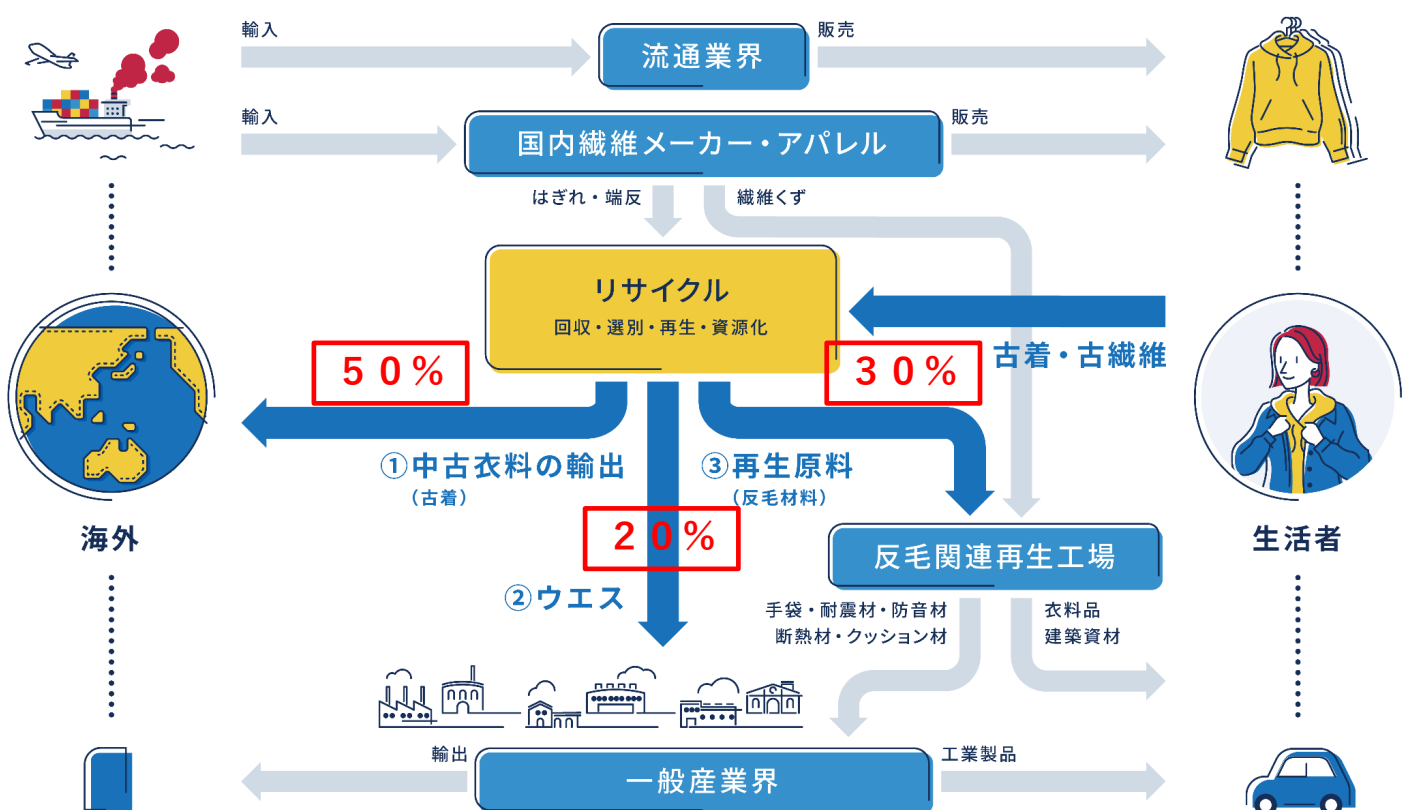
③店頭回収

- 衣類を販売している事業者がその店頭で回収を行うもの
- 回収を始めたきっかけは、
 - ①顧客の来店を促す
 - ②環境意識の高まり
 - ③企業の責務
- 手法については、常時実施か期間限定か、全店舗か一部店舗か、回収ボックス設置の有無、下取りクーポンやポイントの発行の有無、自社製品限定か否かなど多様
- 回収された衣類は、自社でリユースする事業者もあるが、**大半は故繊維事業者などの外部パートナー**に輸送され、再利用や燃料化
- 外部パートナーへの輸送費、回収ボックスの設置費、ポイント付与などを行って、いけばその経費、人員配置を行えば人件費などが必要となり、事業者が負担

16

繊維リサイクルの現状

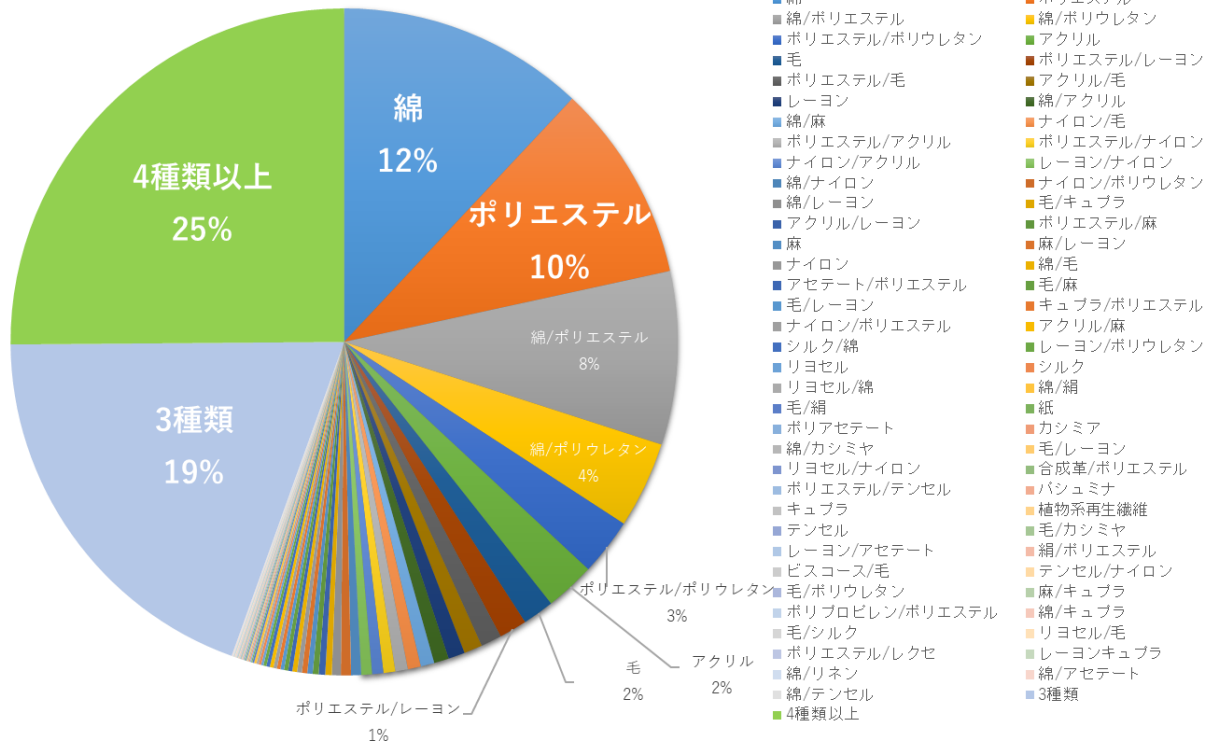
繊維リサイクルの資源化循環図



17

手放された衣類の素材別割合（行政回収）

- 自治体等が回収している衣料のうち、単一素材は約27%、2種素材は約28%、3種素材は約19%、4種以上は約25%



出典：環境省調査（ナカノ株式会社協力）古着古布選別割合データ（店頭回収）調査期間：2022年12月7日～2023年1月13日 計20日間
調査量：3479kg 神奈川・東京・静岡の行政回収品から単一素材、2種素材、3種素材をそれぞれ調査、4種以上は一括り

18

繊維再利用の課題

- ・大量生産と低価格化によりリユース価値が低下
- ・ウエスや反毛の需要が低下
- 従来の仕組みでは規模拡大が望めない状況
- 市町村が回収するにも行き先がない
- ・リサイクルの技術開発は進みつつある
 - ✓ マテリアルリサイクル（コットン、ダウン、ウール）
 - ✓ ケミカルリサイクル（ポリエステル、ナイロン）
- ・衣類は混紡品が多く、ファスナーやボタン等の副資材を含めると複数の異なる素材が用いられていることから、リサイクル可能な衣類は限定的
- 選別技術・リサイクル技術の高度化
- リサイクルを前提として川上から川下まで、共通の配慮事項（環境配慮設計）が必要

19

本日皆さまにお伝えしたいこと

- 1 我が国における繊維製品の資源循環の現状
- 2 繊維製品の資源循環を促進するための課題
- 3 資源循環における我々の役割と今後の対応

20

循環型ファッションのシステムの構築に向けた検討

生活者が手軽に衣類を回収に出しやすい環境づくりに加え、衣類を適切に循環させるシステムを構築することを目指し、実態把握および取組の方向性に関する検討を実施。大きく3つの論点について検討を進めている。

論点① 循環の可視化

- ・衣類のマテリアルフローの精緻化に向けた検討
- ・定期的なモニタリングなど、マテリアルフローの活用に向けた検討

論点② 受け皿の整備

- ・自治体による衣類回収の実態の把握
- ・故繊維事業者による衣類回収・リユース・リサイクルの実態の把握
- ・衣類の資源循環に係る実態・課題を踏まえ、回収した衣類の受け皿の整備に向けた検討

論点③ 使用済衣類の回収量の増加

- ・使用済衣類回収のシステム構築に向けた取組の方向性
- ・回収量増加に向けた阻害要因の把握

21

回収に関する課題と取組の方向性

現状と課題	取組の方向性	
生活者に対し、故衣料品が「資源」であることが十分に認識されていない	国・自治体・事業者による普及啓発	環境整備
利便性のある故衣料品の回収場所が存在しない	回収拠点のより一層の整備	環境整備
「専ら物」に関する自治体の理解促進	自治体の <u>グッドプラクティスの収集・整理</u> リサイクル技術を有する事業者の <u>自治体等への発信の仕組みの整備</u>	周知・広報
産業廃棄物である企業ユニフォーム等に関しては、広域認定制度を活用した回収を行うことも、故衣料品の回収率を向上させるために重要	<u>広域認定制度の周知と制度活用</u> に向けた検討	周知・広報
回収された故衣料品を再利用・再生利用へと確実に繋げることが重要	事業者等の <u>故衣料品等を循環利用する計画の認定と認定事業者に対する支援措置</u> の検討	計画認定・支援措置



京都市における資源回収の様子



アパレル企業における店頭回収の一例（青山商事、ライトオン）



出典：令和5年9月28日 繊維製品における資源循環システム検討会報告書概要

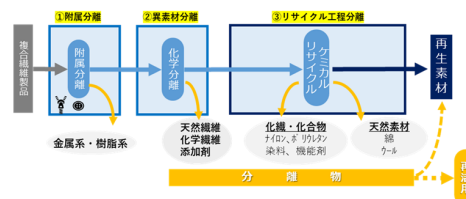
22

分別・繊維再生に関する課題と取組の方向性

現状と課題	取組の方向性	
利便性のある故衣料品の回収場所が存在しない	回収拠点のより一層の整備（再掲）	環境整備
故衣料品の回収増加や労働人口減少に耐えうる効率的な分別・選別体制の構築	故衣料品の分別・選別の効率化に向けた <u>自動選別技術の開発</u> （NEDO先導研究） 故衣料品に含まれる繊維素材等に関する <u>情報のデジタル化</u> （ICタグ活用の標準化調査）	技術開発・標準化
単一素材のリサイクル技術の商用化に向けたリサイクル繊維の品質向上や再生にかかるコスト・エネルギーの低減	単一素材のケミカルリサイクル技術の商用化に向けた <u>コスト低減・リサイクル繊維の品質向上等の技術高度化</u> （令和4年度補正予算にて支援）	技術開発
回収される故衣料品の約65%が混紡品、混紡品の分離・再生技術は未開発	<u>混紡品の分離・再生技術の開発</u> （NEDO先導研究）	技術開発
故衣料品の脱色プロセスにおける環境負荷（水等の使用）の削減	超臨界脱色加工技術等の <u>水消費量の少ないプロセスの開発</u> （NEDO先導研究）	技術開発



回収された故衣料品の選別の様子



複合素材繊維の分離プロセスの一例

出典：令和5年9月28日 繊維製品における資源循環システム検討会報告書概要

23

設計・製造、販売に関する課題と取組の方向性

現状と課題	取組の方向性	ガイドライン策定 環境整備 支援措置
長寿命化やリサイクルしやすい製品設計、製品の環境配慮の度合いを評価するための仕組みが必要。	「環境配慮設計ガイドライン」の策定 （法制度上の位置づけについても検討） 繊維製品におけるマテリアルフローの更なる精緻化 環境配慮設計ガイドライン準拠製品に対する 表示のあり方、製造事業者に対する支援措置 の検討	
現状と課題	取組の方向性	標準化
リサイクル繊維の定義、リサイクル素材の含有量、リサイクルプロセスにおけるCO2排出量等に関する表示ルールが未整備。	標準化（JIS化）の検討と海外制度との調和 （ISO化を見据えた検討） 新たな表示制度の検討やグリーン購入等での優遇	
アパレル企業等により回収された故衣料品の処分方法に関する情報開示が十分でない。	アパレル企業等が回収した 故衣料品の情報開示に取り組みやすい環境整備 、取組に対する支援の検討	環境整備 支援措置
消費者のリサイクル繊維に対する理解の深化やリサイクル製品の購入促進	意識醸成 に向けたそれぞれのプレイヤーの責務の明確化	意識醸成



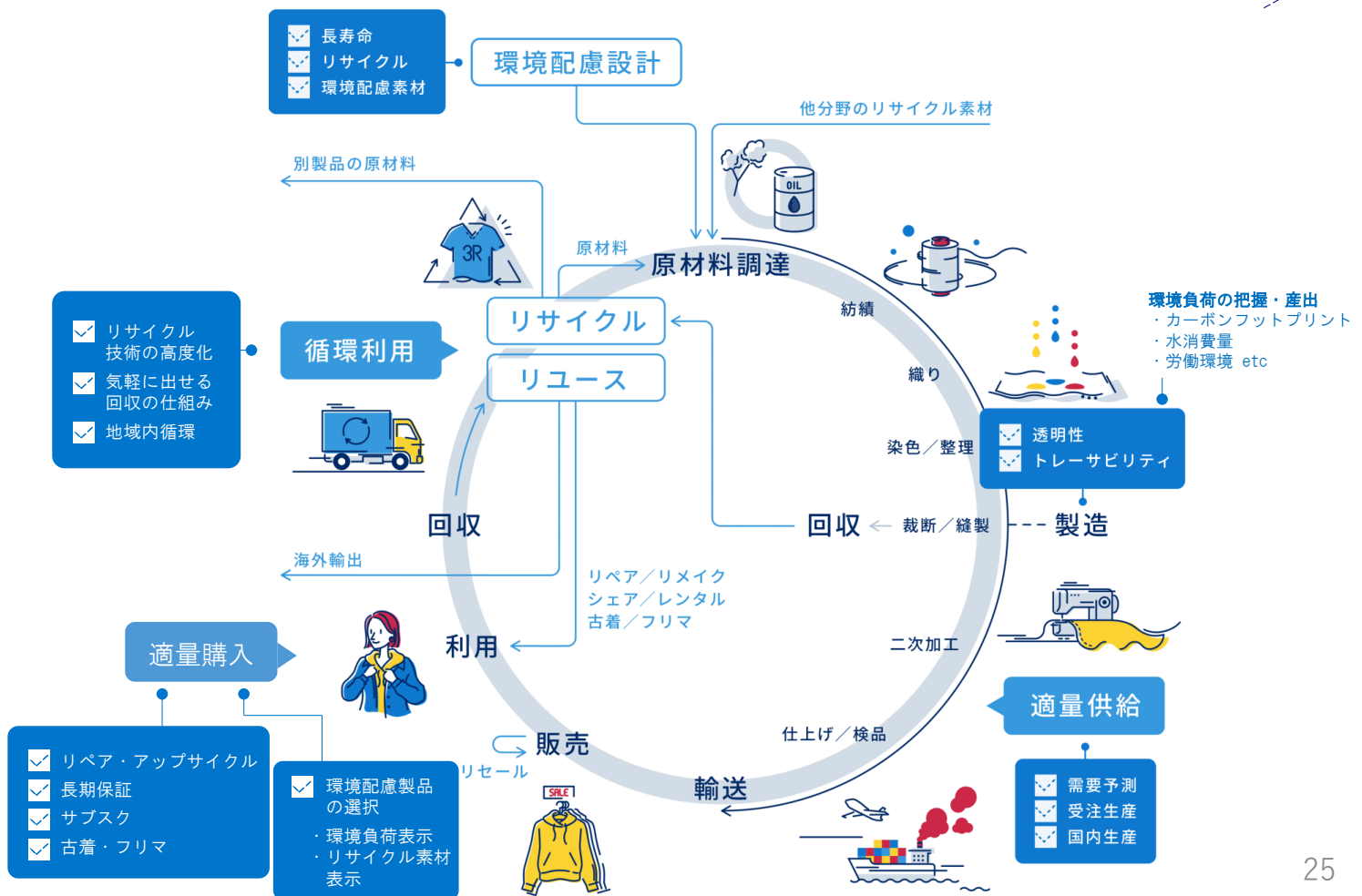
環境配慮設計の一例（東和株式会社）

出典：令和5年9月28日 繊維製品における資源循環システム検討会報告書概要

アパレル企業等によるリサイクル繊維表示の一例（アダストリア、しまむら）

24

サステナブルファッションのイメージ



25

サステナブルファッションHP

- 2022年に環境省サステナブルファッションHPを作成し、2025年に改修。
- 政府のHPらしさのない、わかりやすく、親しみやすく、おしゃれなサイトとしている。企業・自治体・国民どなたが見ても欲しい情報が手に入るような仕様。
- HPの中では、生活者の5つのアクションを紹介。



5つのアクション

1. 今持っている服を長く大切に着る
2. リユースを楽しむ
3. 先のことを考えて買う
4. 作られ方を見る
5. 服を資源として再生利用する

環境省_サステナブルファッションHP

26

ファッションをサステナブルに

- ファッション産業は、暮らしを豊かに彩り、価値を創造し、時代を作るもの
- 問題は「大量生産・大量消費・大量廃棄」
- 生活者・企業・自治体のコミュニケーションと、個々ではなく、それぞれの協働がカギ
- 環境負荷の見える化、回収の仕組みづくりなどで自治体を交えたライフスタイルシフトを後押し
- 資源循環自治体フォーラムという「全国」での議論がサステナブルファッションを推進



もっと詳しく知りたい方はこちら



https://www.env.go.jp/policy/sustainable_fashion/



28

参考資料

≪第二部 第1セッション 第2セッション≫

【テーマ4】

「大阪府豊中市における子供服リユース
「おゆずりぐるり」の取組みについて」

特定非営利活動法人与よなか市民環境会議アジェンダ 21

事務局長

廣田 学

大阪府豊中市における 子ども服リユース「おゆずりぐるり」の 取組みについて



©2012 豊中市 マチカネくん承認第364号

2025年9月12日

資源循環自治体フォーラム 第二部事例紹介

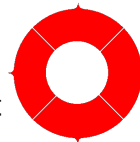
NPO法人とよなか市民環境会議アジェンダ21 廣田 学

1

大阪府豊中市

- 位置: 大阪市の北側に隣接
- 市域: 東西6km、南北10.3km
海拔1~134m
- 人口: 約40万人(約17万世帯)
- 規模: 中核市(2012年移行)
- 特徴: 市内全域が市街化区域
- 鉄道: 阪急電鉄、北大阪急行電鉄、
大阪モノレール
- 道路: 名神高速道路、中国自動車道、
阪神高速道路
- 兄弟都市: 沖縄市
- 有名: 千里ニュータウン
大阪国際空港(伊丹空港)
夏の全国高等野球大会発祥の地
高校ラグビー発祥の地

市章



マチカネワニ



©2012 豊中市 マチカネくん承認第364号



当団体について



【経過】

- 2002年に設立、2003年にNPO法人化
- とよなか市民環境会議(1996年発足・豊中市長が会長)に参加した市民が自立して組織化
- 豊中市と協働し、とよなか市民環境会議が策定した市民・事業者・行政の行動計画「豊中アジェンダ21」を推進

【活動】

- 市民のボランティアが部会ごとに参加
- 全体活動＋4つの部会・4つのプロジェクトで活動
- 豊中市立環境交流センターも運営(指定管理者)

【概要】

- 会員数:個人115人・団体29団体(2024年度)
- 職員数:事務局職員5人(常勤4人・非常勤1人)
- 経常収益(収入):約3,200万円(2025年度予算)

3

子ども服リユースの経過



【2016年度頃～】

- 豊中市が市立こども園で子ども服を回収し、イベントで配布
- 同時期に子ども服の配布をする子育て団体も存在

【2019年度～】

- 環境交流センターで子ども服を回収(期間限定)

【2021年度】

- 豊中市がアーバンイノベーション事業で子ども服の連携団体を募集((一社)ソーシャルギルドが応募・採択)

【2023年度】

- 市内の実施団体・豊中市で子ども服の意見交換会を開始
- 環境交流センターとソーシャルギルドで子ども服のイベント

【2024年度】

- 当団体が応募主体として環境省のモデル事業に応募・採択

4

意見交換会(2023年度)での議論



【課題等】

- 地域や施設でバラバラに取り組んでいる
- 市民団体は子ども服の保管場所が課題
- 市とも関わりがあることを見える化したい

【解決策】

- 取り組みの名称を「おゆずりぐるり」に統一する
- 市が保管している子ども服の提供を受ける
- 行政・市民団体ともに共通で利用できる画像を作成
- のぼり旗を作成し、同じものを掲げていく
- 公共施設の運営をしている当団体が、行政と市民団体の間をつないでいく



5

環境省モデル事業の取り組み

令和6年度
使用済衣類回収の
システム構築に関する
モデル実証事業

【回収・配布の対象】

- 各家庭に眠っている70～160cmの子ども服
※下着、くつ下、シミ・汚れのあるものなどは対象外

【応募時の課題】

- いつでもおゆずりできる常設拠点の拡充
- 常設拠点を円滑に運営する市民(コーディネーター)の存在
- 110cm以上のサイズの子ども服の不足

【主な取り組み】

- 常設拠点での回収・配布(新規開設を含む)
- イベントの実施、スーパー等での回収
- 小学校でのモデル実施(環境学習、子ども服の回収)
- シミ・汚れのある子ども服を使った回収ボックスの作成
- ボランティア体験会の実施と登録、手引きの作成
- リーフレット等の制作・配布、SNS等での情報発信

6

環境省モデル事業の取組み

イベントでの配布



環境交流センターの常設拠点



コープ桜塚での回収

7

環境省モデル事業の取組み



回収ボックスの制作

ボランティア体験会の実施

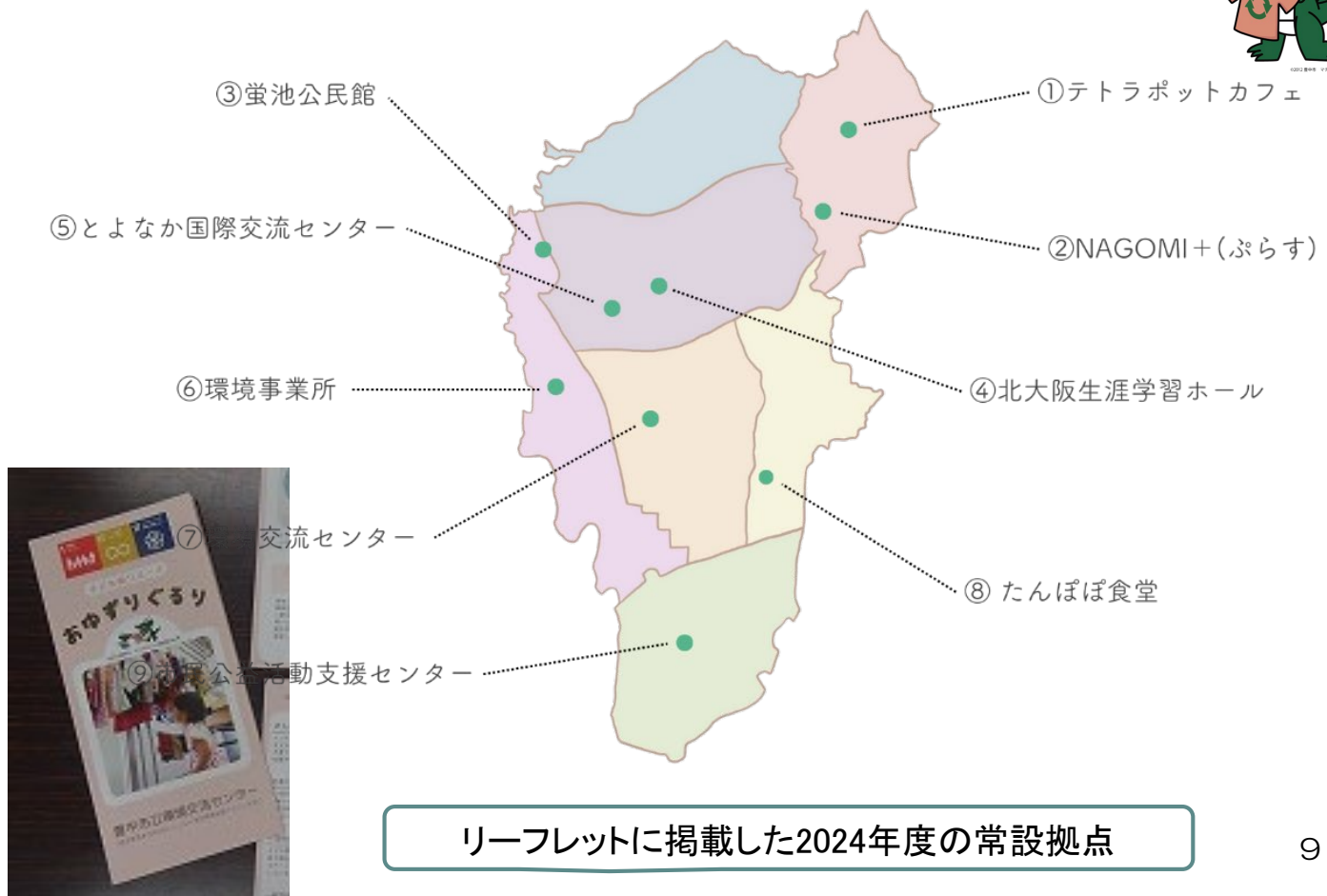


小学校での回収



8

環境省モデル事業の取組み



9

環境省モデル事業の成果



【事業全体の目標と結果】

実施期間: 2024年6月21日～12月20日

(当初) 子ども服10,000枚の回収と配布、参加人数12,000人
(結果) 回収16,912枚、回収11,844枚、参加人数3,540人
ボランティア登録25人(うち常設拠点の対応2人)

【効果検証】

- 回収・配布した子ども服による資源化可能な繊維類の削減
資源化可能な繊維類の削減の0.23%に寄与(916人分)
- 回収・配布した子ども服によるCO₂排出量の削減
家庭部門のCO₂の0.043%の削減に寄与(171人分)
- 配布した子ども服による家計の支援の効果
590万円相当(概算)の経済効果
- 子ども服リユースにおける満足度(アンケート)
93%以上が「満足」「どちらかというと満足」を選択
- 子ども服リユースにおける環境意識の向上(アンケート)
参加者の3人に1人以上が「環境意識が高まった」と回答¹⁰

環境省モデル事業の成果



【効果検証】

- リユース困難な子ども服

混入割合 3.8% (16,494枚中633枚)

【A】回収ボックスに活用

8割近くが製品として利活用、(コスト)1kgあたり約6,000円

【B】洗濯の試行実施

1/3程度が配布可能、(コスト)配布可1枚あたり約470円

	内容	枚数
【A】	回収ボックスに活用(野畑図書館)	135枚
	シミ・汚れコーナーで配布(一部のイベント)	32枚
【B】	洗濯の試行実施 ※	246枚
	通常の配布に戻すもの	3枚
	洗濯に至らないもの(日焼け・破れなど) ※	102枚
	未実施(後半回収分)	202枚
	合計	720枚

※表のうち87枚はモデル事業以前の回収分

11

ご清聴
ありがとうございました



12

≪第二部 第1セッション 第2セッション≫

【テーマ4】

「京都市の取組（サステナブルファッションの推進等）」

京都府京都市 環境政策局 地球温暖化対策室
吉澤 佑夏



京都市の取組（サステナブルファッションの推進等）

京都市環境政策局地球温暖化対策室



1. 脱炭素ライフスタイル推進事業



事業の位置づけについて

- 2050年の京都における脱炭素社会と将来世代が夢を描ける豊かな社会を同時に実現するため、市民、事業者及び学識者等で構成する「京都発脱炭素ライフスタイル推進チーム～2050京創ミーティング～」を令和3年9月に発足。
- 共有すべき脱炭素ライフスタイルのビジョンの策定や市民の実践すべき行動例（アクション）を示す
- アクションを市民が実践しやすい仕掛けとして、企業等と連携してプロジェクトを創出
→ 市民のライフスタイル転換を目指す
- これまで、20のプロジェクトを創出
- 京都市公式HP『2050MAGAZINE』で、京都で起きている様々な脱炭素の変化を発信！

2050 MAGAZINE



- また、2025年からは、より多くの企業等が参画し、「脱炭素×○○」な取組が広がるように、「2050京創プラットフォーム」をスタート！

1. 脱炭素ライフスタイル推進事業



ライフスタイル転換の仕掛けづくり（プロジェクト創出実証）

- 参画する企業等が中心となり、京都市と連携し、市民の皆様が実践しやすい仕掛け（プロジェクト）を創出・実証。
- 2年の実証・支援 ⇒ ビジネスとして社会実装を目指す！

実証に進んでいるプロジェクト



産地を巡る循環ツアー



学生寮断熱ワークショップ



環境負荷の見える化プロジェクト



脱炭素ツーリズムHUB



四条通をサステナブルなシンボルへ



生ごみ堆肥の回収&講座&京都祭コインCOMO

2. サステナブルファッションの推進に向けた取組 使用済衣服の回収&循環プロジェクト「RELEASE⇔CATCH」



事業の背景と目的

背景

- ファッション産業は環境負荷が大きいことから「ファッションロス」として社会課題に
- 京創ミーティングで啓発する市民が実践するアクションとして「古着の利用」「長く大切に着る」「お直し・リメイクファッション」「フリーマーケット、リユースショップの活用」等といった項目を掲げる
- 市民のライフスタイル転換を促す仕掛けとしてプロジェクトを推進
- 京都市はサステナブルなファッション産業への移行を推進することを目的に設立されたジャパン・サステナブル・ファッション・アライアンスのパブリックパートナーに自治体として初めて参画
- 令和4年度に、使用済衣服の回収BOXを設置し市内で循環させるプラットフォーム「RELEASE⇔CATCH」を構築。令和5年度は、本取組を踏まえ、回収及び循環システムの強化を図る。

目的

京都市域内で【不用品の回収】と【再利用】の輪を広げ、
リデュース、リユース、リサイクルの若者文化を醸成する

2.サステナブルファッションの推進に向けた取組 使用済衣服の回収&循環プロジェクト「RELEASE⇔CATCH」

RELEASE⇔CATCH

- 家庭で不要になった衣服を回収、循環させるプラットフォーム「RELEASE⇔CATCH」を立ち上げ
- 使用済衣服の回収BOXを設置
- 回収した衣服は仕分け後、リユース可能な衣服は値付けし販売

循環フェス

- 使用済衣服の回収と循環を体験できるイベントとして開催
- 会場内での回収BOX設置に加え、回収した使用済衣服の無料提供を実施

出張授業等を通じた人材育成

- 高校、大学への回収BOX設置とともに出張授業等を実施
- 「循環フェス」の実行委員会への学生メンバーの参画

- ※ 環境省「令和4年度使用済製品等のリユースに関する自治体モデル実証事業」採択
環境省「令和5年度使用済衣類回収のシステム構築に関するモデル実証事業」採択



2.サステナブルファッションの推進に向けた取組 使用済衣服の回収&循環プロジェクト「RELEASE⇔CATCH」

- 回収BOXの設置（京都市内の常設設置）



回収BOX設置の様子



RELEASE⇔CATCH周知用チラシ

- 回収した衣服の活用（京都市内の店舗での販売）



2.サステナブルファッションの推進に向けた取組

使用済衣服の回収&循環プロジェクト「RELEASE⇔CATCH」



・循環フェス



「循環フェス」チラシ



回収コーナーの様子
(運営には学生ボランティアも参加)



¥0マーケットの様子



会場の様子



ステージイベントの様子

7

2.サステナブルファッションの推進に向けた取組

使用済衣服の回収&循環プロジェクト「RELEASE⇔CATCH」



定量的効果

- **ごみ削減量 (kg)**
回収量 62,874kg
- **本取組におけるCO₂削減量 1,595.9t- CO₂**
 - ・使用済衣服の廃棄に係るCO₂の削減量
91.4 t- CO₂ ※合成繊維割合63.6%×排出係数2.287(kgCO₂/t) × 衣服の回収量(t)
 - ・新規衣服の製造に係るCO₂の削減量
1504.5 t- CO₂ ※新製品の製造に係るCO₂排出量25.5(kg/着) × リユースした衣服量(着)

(R4年9月～R7年4月末時点)

	回収量 [着数]	リユース量 [着数]
RELEASE⇔CATCH	49,069kg [約19.6万着]	11,275kg [約4.5万着]
循環フェス (7回開催分)	13,805kg [約5万着]	3,566kg [約1.4万着]
計	62,874kg [約24.6万着]	14,841kg [約5.9万着]

※1着0.25kgとして計算

8

2. サステナブルファッションの推進に向けた取組 使用済衣服の回収&循環プロジェクト「RELEASE⇔CATCH」

今後の課題

- ・ **事業継続（ビジネス化）に向けた更なる回収量と質の向上**
 - ・ リユース可能な衣服の質を保ちながら、回収BOX設置等により回収量を増やす。
- ・ **より高次の資源循環システムの構築**
 - ・ リサイクル技術を持つ協力事業者の参画拡大
 - ・ 出口の透明性確保
 - ・ アップサイクル等推進
- ・ **脱炭素に向けた人材育成の更なる推進**
 - ・ 教育現場等におけるサステナブルファッションに関する普及啓発



9

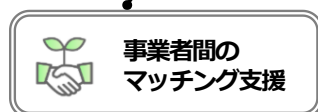
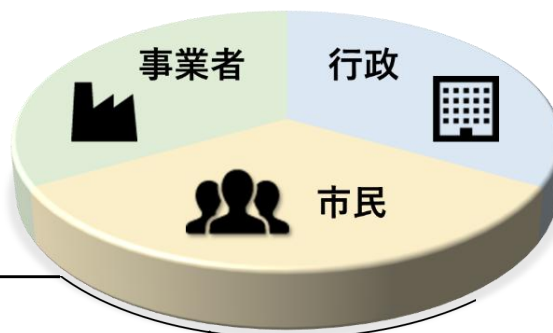
3. 2050京創プラットフォームへのご案内

2050京創 プラットフォーム

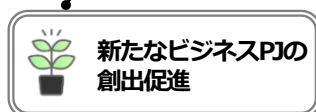
2050京創プラットフォームは、**市民・事業者・行政が交ざり合い、協働・連携していくための場**です。

「〇〇×脱炭素」な取組の広がりから、

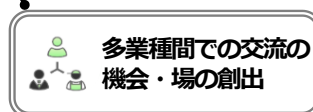
- ・ 市民生活の豊かさ、
 - ・ 事業活動の活性化、
 - ・ 地域のつながり
- を実現



事業者間の
マッチング支援



新たなビジネスPJの
創出促進



多業種間での交流の
機会・場の創出

登録はこちらから！／



10





Plastics
Smart